

第1号議案

平成21年度 事業報告書

1. 平成21年度に開催した主な会議・会合

(1) 第89回定時総会

平成21年6月19日1630～1730 海事センタービル2階会議室

出席者 正会員385名（出席35名、委任状350名）

次の議案を議決した。

- ① 平成20年度事業報告及び会務報告並びに決算報告について
- ② 平成21年度事業計画案並びに収支予算案について
- ③ 理事及び監事の改選について
- ④ 会員外監事1名の選出について

報告事項

- ・ 名誉会員（1名）並びに特別会員の推薦（6名）について
- ・ 常設委員会改組について
- ・ 新公益法人制度への申請準備について

(2) 評議員会

平成21年5月20日1300～1415 海事センタービル8階会議室

出席者 評議員47名（出席4名、書面表決43名）

次の議案を議決した。

- ① 平成20年度事業報告並びに決算報告及び財産目録について

(3) 理事会

(第1回)

平成21年5月20日1300～1415 海事センタービル8階会議室

出席者 理事38名（出席19名、書面表決19名）監事1名

次の議案を議決した。

- ① 平成20年度事業報告並びに決算報告及び財産目録について
- ② 名誉会員（1名）、特別会員の推薦（6名）について
- ③ 常設委員会改組について
- ④ 公益或は一般社団法人への「認可」、「認定」申請準備について

(第2回)

平成21年7月9日1200～1330 本部会議室

出席者 理事38名（出席17名、書面表決21名）監事3名

次の議案を議決した。

- ① 常任役員の選任について
- ② 評議員の改選について
- ③ 顧問の推薦について

(第3回)

平成21年12月3日1200～1400

出席者 理事36名（出席17名、書面表決19名）監事2名

次の議案を議決した。

- ① 定款の改訂並びに関連規程及び内規新設について

(第4回)

平成22年3月18日1200～1400

出席者 理事38名（出席16名、書面表決22名）監事1名

次の議案を議決した。

- ① 平成22年度総会開催日程について
- ② 平成22年度事業計画書（案）及び予算書（案）について

(4) 監事監査

平成21年5月8日1100～1300 本部会議室

監事3名による平成20年度監査を実施

(5) 常設委員会（主なる審議、調査並びに意見交換事項）

- ① 総務委員会（萬治委員長、委員8名、特別委員1名、委員会1回開催）
- ② 財務委員会（江口委員長、委員8名、委員会1回開催）

平成21年6月より総務、財務委員会を合併して、会務委員会に改称した

- ③ 会務委員会（平塚委員長、委員10名、特別委員1名、委員会2回開催）

- 定時総会、役員会等の開催計画、議案等
- 平成21年度事業報告案、平成22年度事業計画案
- 新公益法人制度移行スケジュール並びに現定款の改訂事項の検討
- 横浜会館の整備についての検討
- 新会員管理システム内容の説明
- 会費未納者への会費納入促進についての意見交換
- ホランティアクラブの活動状況報告

- ④ 海事問題調査委員会（前半 鏡委員長、後半 赤峯委員長、委員8名、委員会3回開催）

- 第15回締結国会議（COP15）の審議状況並びに国際海運の温室効果ガス削減に関する審議の動向についての報告
- IMOにおける外航海運のCO2排出量の予測並びに効率改善に関する意見交換
- 電池推進船に関する最新技術情報等を主な議題として取り上げた

- ⑤ 編集委員会（増田委員長、委員9名、委員会5回開催）

- 会誌「海洋」発行の企画、編集（年5回発行）
- 特集号の企画並びに会誌のサイズ及び字体の変更等の検討

(6) 特設委員会（主な審議事項）

- ① ワークショップ「真の海事立国に向けて」

（第一フェーズ平山委員長、第二フェーズ安本委員長、委員5名、委員会4回開催）

- 前年度に引き続き第二フェーズは「次世代海技者育成機関のあり方」をテーマにワークショップ方式で作業を行い、中間報告を纏めて「海洋」に発表する予定である

- ② 企画委員会（佐々木委員長、委員6名、委員会1回開催）

- 海洋会の中期的活動計画を立案することを目標に、今年度の総会で設立が承認された特設委員会である。初回は当委員会の具体的な作業についての意見交換を行った

(7) 支部長連絡会議

平成21年5月20日1445～1630 本部会議室

出席者（本部）3名、（支部）12名

- 新公益法人制度の説明と今後の対応についての各支部の意見ヒアリング
- 現在の会員構成状況並びに財務全般状況及び会費納入状況の報告と支部経費についての協力要請
- 各支部の現状並びに主要な活動の報告

(8) 主な会合（本部主催）

- ① 会員懇親会（第89回定時総会終了後）
平成21年6月19日 1800～1930 本部会館
出席者75名（来賓17名、会員51名、学生7名）
- ② 受賞会員祝賀会
平成21年12月10日 1200～1330 本部会館
出席者60名（受賞会員9名、来賓9名、会員42名）
- ③ 新年賀詞交換会
平成22年1月8日 1200～1330 本部会館
出席者81名（来賓23名、会員58名）

2. 事業関係

(1) 海事にかかわる調査研究

- ① 昨年度に引き続いて、海上の環境問題をテーマに、委員が交互に最新情報を取り寄せて発表を行う
- ② 上記の環境問題に関係する電池推進船の研究に関して、東京海洋大学から講義を受ける
- ③ 「真の海事立国に向けて」の第二フェーズである「次世代海技者育成機関のあり方」について有識者が集まり、議論を行った。纏まり次第「海洋」に発表する予定、更に、海洋会としての当件に関する提言を検討

(2) 海事思想の普及

- ① 祝日「海の日」を主とする関係諸行事参加、広報活動への協力
- ② 重要文化財明治丸保存の推進に関わる諸活動の実施

(3) 会誌等の発行

- ① 会誌「海洋」（No. 862～No. 866 年5回発行）

(4) 講演会等の開催（開催日時、場所、出席人数、講演題目並びに講師）

- ① 東京支部
21.12.7 海事センタービル8階会議室(29名)
「新しい海難審判制度と海難審判法改正に伴ういくつかの問題」
海事補佐人 岸本宗久氏
- ② 横浜支部
21.11.10 横浜海洋会館会議室(23名)
「北極の海からのメッセージ」 日本郵船歴史博物館 赤嶺正治館長代理
22.3.9 波止場会館(80名)
「海賊対処活動ソマリア・アデン湾の現状」
防衛省海上幕僚 藤原実知也 2等海佐
- ③ 神戸支部
21.6.9 神戸海洋会館会議室
「船が出来るまで」三菱重工神戸造船所船渠 山下滋生氏
- ④ 名古屋支部
21.10.29 ホテルアソシア(35名)
「新しい海事社会を目指して！！」(株)日本海洋科学 富久尾社長
- ⑤ 東北支部
21.6.20 第8回せんだいメディアテーク(30名)
海と船の映画祭 第1部「飛鳥2」第2部「ペンギン物語」 (一般公開)
- ⑤ 富山支部

21.8.20,21 日本海学生フェイルド[®]講座（第二部海）への協力
富山商船高専練習船若潮丸 石森繁樹、山崎祐介、千葉元、笹谷敬二氏
21.11.28 民宿はかま寿司
「伏木富山港に関する水路誌改訂について」北村 貢氏

⑥ 長崎支部

21.7から長崎市内学童保育などを対象に「帆船折り紙教室」を5回程開催。航海訓練所の協力を得て、帆船実習風景などの画像を放映して、海や船の素晴らしさを伝えるという海事思想普及活動を行う。

(5) 会館の運営

- ① 神戸会館 会館の有効活用の模索
- ② 横浜会館 横浜市の「歴史的建造物」に登録準備作業並びに横浜開港150周年記念事業である「象の鼻地区」整備に関する協力事業

(6) 会員の福利厚生

会員からの就職、転職等の各種相談事項への対応

(7) 両大学及び学生との交流等

- ① 東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海事科学部
 - 卒業時の海洋会賞贈呈
 - 東京海洋大学海洋工学部
 - 海事システム工学科 航海システムコース 蝦名 雄揮
 - 同 情報システムコース 豊島 聖史
 - 流通情報工学科 大山 勝也
 - 海洋電子機械工学科 機関システム工学コース 渡辺 陽介
 - 同 制御システム工学コース 望月 貴行
 - 神戸大学海事科学部
 - 海事技術マネジメント学課程（航海群） 末永裕 一朗
 - 同（機関群） 末吉 純
 - 海上輸送システム学課程 木下 侑亮
 - マリエン지니어リング[®]課程 松山 貴則
 - 海洋工学部、海事科学部支援のための寄附
 - 学生祭等支援（海王祭、深江祭等）
 - 会誌「海洋」の贈呈

② 航海訓練所

- 図書の寄贈

(8) 支部活動の推進（活動概要は「支部等の状況」を参照）

- ① 支部長連絡会議の開催（平成21年5月20日）
- ② 支部補給金の配布
- ③ 海外海洋会の通信費等の支援
- ④ 歴史的建造物登録を機に、横浜会館の整備についての検討

(9) 各職域、サークル活動の支援

損保海洋会等の職域、運動部OB会等

(10) ボランティアクラブ活動

- 重要文化財明治丸一般公開、ビーチクリーンアップ、海洋環境保全、船の科学館支援、その他について各部会別実施
- 会誌編集並びに発送業務の支援
- 住所不明会員の追跡調査の支援

3. 会務関係

(1) 名誉会員並びに特別会員の推薦

- ① 名誉会員 高井睦雄（東京海洋大学前学長）
- ② 特別会員 久保伸明 田中健太郎 竹縄知之（東京海洋大学）
宋 明良 勝井辰博（神戸大学）
仲野英次（海技大学校）

(2) 新会員の加入推進

新卒業者は、東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海事科学部、独立行政法人航海訓練所、各海運会社等の協力により105名が入会、既卒者の未入会者は4名入会

(3) 財政上の諸対策

- ① 増収対策
 - 銀行、郵便局による会費自動振込制度の拡大
 - 会費の職域毎納入の拡大
 - 会費の長期滞納者への督促
 - 支部組織を通じての会費納入依頼
 - 郵送ラベル提供等によるクラス会支援を通じての会費請求
 - 会誌広告料収入の増収確保
 - 不動産賃貸料収入の確保
- ② 諸経費削減対策
 - 会員有志の会誌発送業務による通信運搬費の削減
 - 従来から継続していた会務の内、不要、不急事項を洗い出す

4. 本会会員数

(1) 正会員

①平成20年度末（平成21.3.31現在）	12,147名	
②平成21年度中への入会者	109名	
③平成21年度中の死亡者	135名	
④平成21年度中の退会者	100名	
⑤平成21年度中の再入会者	2名	
⑤平成21年度末（平成22.3.31現在）	12,023名	（124名減）

(2) 名誉会員 4名

(3) 特別会員 103名

会員数合計 12,130名

5. 受賞会員

(1) 平成21年度生存者叙勲、褒章及び大臣表彰（順不同）

〈生存者叙勲〉

（春季） 内田直行 立石健三 西田 勉 宮森 勝 米田 裕
望月二郎
（秋季） 高祖健一郎 後藤 謙 米田 巽 井上篤次郎 木村正次
黒田不二夫 山崎重勝

〈褒章〉

（春季） 稲葉八洲雄 河村匡二 高木義人 能丸喜義
（秋季） 河合宗行 益田増須美

〈海事功労者〉（国土交通大臣表彰）

芦見信孝 小野嘉久 福知 武 近藤松美 後藤清孝

北原昭明 菊地三郎 河野照道 小野政勝 吉澤伸幸
竹野 肇 井上正司 大久保洋三 堀田時彦 坂本徹彦

6. 役員等の逝去

顧問 桜井 勇 (21.9.22)

7. 支部の状況

(1) 支部の活動状況 (総会、各委員会、主要事業のみ)

支部名	総会	支部委員会等	主要事業
東京	21.6.19 海事センタービル2階 終了後本部懇親会	支部委員会2回	講演会(前掲通り) 支部懇親会21.12.7(29名)
横浜	21.5.12 横浜会館 終了後懇親会	常任委員会3回 支部委員会6回 支部監査	会員懇親会(春)21.5.12(66名) 会員懇親会(秋)21.10.13(55名) 受章者祝賀会 21.12.8(59名) 賀詞交換会 22.1.12(73名) 海の日前夜祭 21.7.17(151名) 練習船入港/遠洋航海出港見送 6回12名 ビーチクリーンアップ ^o 1回19名 講演会 (前掲通り)
神戸	21.6.12 神戸会館 終了後懇親会	支部委員会3回 支部監査	海事科学部卒業生の入会手続き 同学部卒業式等諸行事参画 受章者祝賀会,忘年会 21.11.27 賀詞交換会 22.1.8 練習船入港時入会勧誘の訪船 講演会 (前掲通り)
関門	21.12.14 あかしあ 終了後忘年会(24名)	拡大支部委員会3回 支部委員会2回	賀詞交換会 22.1.8(13名) 洋葉会 21.7.15(22名)
清水	22.1.30 やすい軒 終了後新年会(36名)		練習船歓迎訪船 日本丸、海王丸21.10.26(3名) 大成丸 22.3.2 納涼会 21.8.29(35名)
函館	21.7.24 四季海鮮 旬花 終了後懇親会(8名)	支部役員会1回	練習船歓迎訪船、懇談会 銀河丸21.7.10日本丸21.7.25 海王丸21.8.20青雲丸21.8.24
北海道	22.2.12 たじま屋 終了後懇親会(14名)	支部委員会2回	小樽海洋技術学校行事出席 若葉会との交流会

中 国	21. 5.23 ひろしま広島国際ホテル 終了後懇親会(20名)	支部委員会3回	賀詞交換会 22.1.30(20名) 広島港カッターレース大会出場(当日 天候急変中止 21.7.24(10名) 練習船歓迎訪船、懇談会 銀河丸21.5.29日本丸21.11.20 瀬戸内海の海事関連調査 21.11.14(10名)
長 崎	21. 5. 8 三菱記念会館 終了後懇親会(20名)	支部委員会4回	新年会 22.1.15(30名) 長崎帆船祭参加 21.4.23~27 海の日記念式典参加 21.7.17, 25, 28 練習船歓迎訪船(6隻) 県教育関係先へ海事関係進学 情報の提供
名古屋	22. 1.22 ホテルアソシア 終了後賀詞交換会 (31名)	支部委員会4回	懇話会(講演会内容は前掲通り) 練習船歓迎訪船 海王丸21.11.5銀河丸22.2.10 企業見学会 21.10.3(19名)
四 国	21.10.10 オリエンタルホテル小豆島 終了後懇親会(7名)	支部役員会2回	ウエルカムサポート高松推進協議会出席 賀詞交換会 22.2.11(11名) 練習船歓迎訪船 青雲丸21.11.24
鹿児島	22. 2.22 サンデイズイン鹿児島 終了後洋葉会と 合同懇親会 (15名)	支部委員会2回	海の日歌唱コンクール出場 21.7.14, 7.20(12名) 練習船歓迎訪船 海王丸21.4.19
東 北	21. 5.25 おしか 終了後懇親会(13名)	支部役員会2回	海と船の映画祭(講演会内容は 前掲通り)(30名)
千 葉	21.12.18 蕪村 終了後懇親会(18名)	支部委員会1回	
富 山	21.11.28 民宿はかま寿司 終了後懇親会(8名)	支部委員会1回	講演会 (前掲通り)

8.本部、支部設置状況

(平成22.3.31.現在、海外海洋会を含む)

本部	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル6F TEL. 03-3262-8632 FAX. 03-3262-6909 http://www.kaiyo-kai.com E-mail: honbu@kaiyo-kai.com	会長 杉崎 昭生 副会長 鈴木 三郎 副会長 大内 博文 専務理事 高橋 正夫 常務理事兼 事務局長 小暮 文悟 職員 城戸 知子 職員 大河原さおり 嘱託 稲川 栄子
東京	同上(本部住所と同じ)	佐藤 邦男支部長以下同じ
横浜	〒231-0002 横浜市中区海岸通 1-1 TEL. 045-201-7786 FAX. 045-201-7785 IP 050-5536-2440	大内 博文 (事務室長 古市 初夫)
神戸	〒650-0011 神戸市中央区下山手通 3-15-10 TEL. 078-331-3128 FAX. 078-331-3130 IP 050-5536-2439	鈴木 三郎 (事務室長 伯野 武二)
関門	〒801-0804 北九州市門司区西海岸1-2-18 マリナーズコート門司4F {連絡先:日本サルヴェージ(株) 門司支店 〒801-0804 北九州市門司区田野浦海岸15-73 TEL. 093-321-0937}	山本 金徳
清水	〒424-0206 静岡市清水区興津清見寺町1375-51 鈴与自動車運送(株) 取締役 正木 勝 気付 TEL. 054-369-3131 FAX. 054-369-3437	矢野 経征
函館	〒049-0111 北斗市七重浜 2-15-3 北海道函館水産高校内 浪岡哲史気付 TEL. 0138-49-2411 FAX. 0138-49-0168	里 憲
北海道	〒065-0026 札幌市東区北26条東18-2-5 高橋孜方 TEL. 011-786-4185	安斎 勲
中国	〒732-0066 広島市東区牛田本町 3-4-13 (有)イシヅファイナンシャルサービス内 TEL. 082-511-2866 FAX. 082-511-2867	石津 則昭
長崎	〒850-0862 長崎市出島町 3-10 沢山ビル5階 光和興業(株) 坪井 英彦気付 TEL.&FAX. 095-820-3040	今村 正吾
名古屋	〒455-0033 名古屋市港区港町 1-9 伊勢三河湾水先区水先人会 名古屋事務所内 TEL. 052-654-1281 FAX. 052-652-4501	堀 浩平
四国	〒762-0033 坂出市谷町 2-7-50 TEL.&FAX. 0877-46-0321	大西 守
鹿児島	〒892-0801 鹿児島市稲荷町13-4 TEL.&FAX. 099-247-1418	亀山 東彦
東北	〒980-0822 仙台市青葉区立町 4-18-605 福原博信方 TEL.&FAX. 022-224-3286	岸 良彬
千葉	〒260-0822 千葉市中央区蘇我町2-965 (有)昭栄工業内 TEL.&FAX. 043-263-1871	村上 俊一
富山	〒933-0293 射水市海老江練合 1-2 富山高等専門学校 河合 雅司 気付 TEL. 0766-86-5225 FAX. 0766-86-5110	石森 繁樹

海外海洋会

(平成22年3月31日現在)

ロンドン海洋会

Mitsui O.S. K. Bulk Shipping (Europe) Ltd.
Dexter House、Royal Mint Court、London、EC 3N 4JR

下川 主税 気付
TEL. 44-20-7265-7574
FAX. 44-20-7265-7699

会長 吉永 彦爾 (東N115)
代表幹事 宇都宮英樹 (東船大N30)
事務局 下川 主税 (東船大N36)

マニラ海洋会

PHILIPPINE STANDARD SHIPMANAGEMENT INC.
SUITE 1008 ERMITA CENTER BUILDING
1350 ROXAS BOULEVARD ERMITA MANILA, PHILIPPINES

TEL. 63-2-518-0465
FAX. 63-2-526-4336

飯島 直樹 気付
会 長 関 敏 (東船大N16)
幹 事 飯島 直樹 (東船大N32)

ジャカルタ海洋会

PONDOK INDAH TOWER JL. METRO PONDOK INDAH
SEKTOR II BLOK SA JAKARTA SELATAN INDONESIA

TEL. 62-21-750-1085
FAX. 62-21-750-1125

会 長 室 吉次郎 (東船大N19)
事務局 同上

南加海洋懇親会

MULTIMODAL ENGINEERING CORP.
4010 WATSON PLAZA DRIVE, SUITE 250
LAKEWOOD, Ca 90712 U.S.A. 山崎 芳淳 気付

TEL. 1-562-425-4023
FAX. 1-562-425-0809

会 長 齋藤 泰 (神船大N7)
事務局 山崎 芳淳 (下関水産)

シンガポール海洋会

Yanmar Asia(Singapore) Corporation PTE LTD.
4 Tuas Lane、Singapore 638613 田井良幸 気付

TEL. 65-6595-4200
FAX. 65-6862-5189

会 長 矢倉 則行 (神船大N16)
幹 事 田井 良幸 (神船大E36)

香港海洋会

NEW ASIAN SHIPPING COMPANY LIMITED
19/F Tai Yau Building、181 Johnston
Road、Wanchai、HK HONG KONG SAR 大森 彰 気付

TEL. 852-2507-6629
FAX. 852-2527-8333

会 長 大森 彰 (東船大N33)
事務局 宮崎 洋介 (神船大BN44)

財産目録

平成22年 3月31日現在

社団法人 海洋会

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	3,137,046	
現金手許有高	40,868	
普通預金／銀行	1,481,780	
三菱東京UFJ銀行	1,481,780	
金銭信託／三菱UFJ信託銀行	719	
郵便振替預金	1,613,679	
前払金	2,230,230	
海事センタービル共益費	329,784	
日本海洋振興会借地料	54,288	
飲み物他	8,658	
会員管理ソフト導入費着手金	1,837,500	
流動資産合計		5,367,276
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
土地	29,325,010	
公社債(基)	420,724,740	
東海東京証券	420,724,740	
基本財産合計	450,049,750	
(2) 特定資産		
役員退任慰労引当資産	1,556,000	
退職給付引当資産	2,302,000	
建物減価償却引当資産	41,663,702	
備品減価償却引当資産	8,065,144	
受入敷金積立資産	300,000	
特定資産合計	53,886,846	
(3) その他固定資産		
建物	185,953,193	
備品	8,401,200	
減価償却累計額	△ 107,221,402	
建物減価償却累計額	△ 99,156,258	
備品減価償却累計額	△ 8,065,144	
投資有価証券	7,382,474	
ペアリーBAMワールドポイント	7,382,474	
敷金	108,000	
その他固定資産合計	94,623,465	
固定資産合計		598,560,061
資産合計		603,927,337
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	77,466	
労働保険料精算額	77,466	
賞与引当金	715,800	
流動負債合計		793,266
2. 固定負債		
役員退任慰労引当金	1,556,000	
退職給付引当金	2,302,000	
受入敷金	300,000	
固定負債合計		4,158,000
負債合計		4,951,266
正味財産		598,976,071

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について

①満期保有目的の債券…償却原価法（定額法）を採用しております。

②その他有価証券

時価のあるもの…決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は正味財産増減額として処理し、売却原価は総平均法により算定）を採用しております

時価のないもの…総平均法による原価法を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却について

・有形固定資産…定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建物附属設備 15年

什器備品 4～5年

なお、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、取得価額の5%に到達した事業年度の翌事業年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。

(3) 引当金の計上基準について

①賞与引当金

職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

②退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、期末自己都合要支給額の100%を計上しております。

③役員退任慰労引当金

役員退任慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引について、少額な場合には通常の賃貸借取引に係わる方法に準じた会計処理によっております。

(5) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は、税込処理によっております。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産 土地	29,325,010	0	0	29,325,010
公社債	404,300,000	17,000,000	0	421,300,000
公社債評価損益	1,010,082	0	1,585,342	△ 575,260
金 銭 信 託	0	0	0	0
普 通 預 金	17,000,000	0	17,000,000	0
小 計	451,635,092	17,000,000	18,585,342	450,049,750
特定資産 役員退任慰労 引当資産	1,140,000	416,000	0	1,556,000
退職給付 引当資産	5,050,000	2,302,000	5,050,000	2,302,000
建物減価償却 引当資産	41,663,702	0	0	41,663,702
備品減価償却 引当資産	7,897,120	168,024	0	8,065,144
受入敷金 積立資産	300,000	0	0	300,000
小 計	56,050,822	2,886,024	5,050,000	53,886,846
合 計	507,685,914	19,886,024	23,635,342	503,936,596

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次の通りです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定 正味の 充当額) から	(うち一般 正味の 充当額) から	(うち負債に 対応する額)
基本財産 土地	29,325,010	—	29,325,010	—
公社債	421,300,000	—	421,300,000	—
公社債評価損益	△ 575,260	—	△ 575,260	—
金 銭 信 託	0	—	0	—
普 通 預 金	0	—	0	—
小 計	450,049,750	—	450,049,750	—
特定資産 役員退任慰労 引当資産	1,556,000	—	—	1,556,000
退職給付 引当資産	2,302,000	—	—	2,302,000
建物減価償却 引当資産	41,663,702	—	41,663,702	—
備品減価償却 引当資産	8,065,144	—	8,065,144	—
受入敷金 積立資産	300,000	—	300,000	—
小計	53,886,846	—	50,028,846	3,858,000
合計	503,936,596	—	500,078,596	3,858,000

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りです。

(単位：円)

科 目	取得価額	前期末減価 償却累計額	減価償却 当期減少額	減価償却 累計額	当期末残高
建 物(本部)	64,503,975	29,815,791	962,824	30,778,615	33,725,360
" (横浜)	27,638,040	18,655,677	690,951	19,346,628	8,291,412
" (神戸)	93,811,178	47,067,525	1,963,490	49,031,015	44,780,163
計	185,953,193	95,538,993	3,617,265	99,156,258	86,796,935
備 品(本部)	3,094,000	2,908,356	61,880	2,970,236	123,764
" (横浜)	3,446,800	3,239,988	68,936	3,308,924	137,876
" (神戸)	1,860,400	1,748,776	37,208	1,785,984	74,416
計	8,401,200	7,897,120	168,024	8,065,144	336,056
合 計	194,354,393	103,436,113	3,785,289	107,221,402	87,132,991

5. 保証債務等の偶発債務

担保に供している資産はありません。また保証債務はありません。

6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益は、次の通りです。

(単位：円)

科 目	帳簿価格	時 価	損益評価
フィンランド地方金融公社 PRDC20371127	100,000,000	84,460,000	△ 15,540,000

7. 退職給付関係 追加

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。

(2) 退職給付債務及びその内訳

(単位:円)

	職員分	常勤役員分	合計
①退職給付債務	2,302,000	1,556,000	3,858,000
②退職給付引当金	2,302,000	1,556,000	3,858,000

(3) 退職給付費用に関する事項

(単位:円)

	職員分	常勤役員分	合計
①勤務費用	2,352,000	416,000	2,768,000
②退職給付費用	2,352,000	416,000	2,768,000

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額によっております。

8. リース取引関係 追加

(1) 未経過リース料期末残高相当額

解約不能のものに係る未経過リース料

	1年以内	1年超	合計
未経過リース料	1,439,544	2,600,804	4,040,348

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次の通りです。

該当ありません。

10. 関連当事者との取引の内容は、次の通りです。

該当ありません。

11. その他の追加情報

該当ありません。

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金及び未払金を含めております。なお、前期末及当年度上半期残高は下記2. に記載するとおりであります。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳は次のとおりです。

科 目	一 般 会 計	
	前期末残高	当期末残高
現金預金	1,186,720	3,137,046
未収金	31,500	0
前払金	472,975	2,230,230
合 計	1,691,195	5,367,276
未 払 金	0	77,466
合 計	0	77,466
次期繰越 収支差額	1,691,195	5,289,810

第2号議案

平成22年度 事業計画 (案)

1920年(大正9年)に公益法人として社団法人商船学校校友会を設立、1938(昭和13年)には校友会を社団法人海洋会と改称し、本年度は創立90周年目を迎えます。人間に例えれば丁度90歳、長寿社会を迎えたとはいえ、人間同様、組織や団体が1世紀近くも存続することは、会に属する会員にとっては実に誇りになることといえましょう。

昨年夏に政権交代が行われ、大多数の国民は新政権に速やかな不況脱出を期待したにもかかわらず、我が国の経済は深刻なデフレーションスパイラルに陥り、経済活動に直接関係のない我々のような団体にまで、影響を及ぼしてきております。

社団法人として、90年の歴史と伝統を誇る海洋会にとっては、過去にこれ以上の深刻な状況にも、長年蓄積してきた経験や叡智を発揮して、海事関係のみならず、一般社会に広く貢献する団体として存続してきた訳ですので、これからも自信を持って会の運営に当たる覚悟であります。

一昨年12月1日に新公益法人制度が施行されました。施行と同時に海洋会は特例民法法人となり、平成25年11月末まで一般社団法人として認可を受けるか、公益社団法人として認定を受けるかを選択しなければなりません。当件については、昨年度に常設委員会並びに理事会にて審議を重ね、且つ「公益認定委員会」の助言を得て、一般社団法人への移行が順当であろうとの方針を決めました。

今年度はそれ等審議並びに助言をベースにして、常設委員会、理事会並びに定時総会で正式な新公益法人制度に対する方針を決議する必要があります。また、それ以前にも新制度へ速やかに移行出来るような定款変更並びにガバナンス整備等々、諸々のことを昨年度に引き続き準備作業をしておかなければなりません。その準備作業の大きな事項としては、「公益目的支出計画」策定があげられますが、昨年度の常設委員会、理事会で審議した内容を会員にあらゆる機会を利用して、広く情宣活動をする必要があります。

更には、昨年度第二フェーズが完了したワークショップ方式で進めている「真の海事立国に向けて」の第三フェーズに着手して、その成果物を関係先に情報発信したいと考えております。また、特設委員会形式で設営した「企画委員会」で海洋会の近未来の姿をデザインする課題にも取り組まなければならない年度でもあります。

第1 事業関係

本年度計画している事業を、定款第4条に定めている事業区分で纏めると、次の通りであります。

(1) 船員問題に関する調査研究

昨年度は「真の海事立国に向けて」という目標を掲げて、第二フェーズである「次世代海技者育成機関のあり方」をテーマに、ワークショップ方式により作業を行い、その成果物を「海洋」に掲載する予定である。本年度も引き続き、会員から有識者を募り、活発な議論を行ったうえ、成果物を世に問えるように推進する。

(2) 海事に関する技術の調査研究

常設組織である「海事問題調査委員会」は、従来海事関連社会の安全問題の研究

並びに調査とやや抽象的且つ概略的なテーマを掲げていたが、昨年7月委員長並びに一部の委員が交代された機会に、より具体的な以下のテーマを、毎回各委員に宿題を出し、次回に発表する方式で進め、適宜会誌「海洋」に発表することとしている。

即ち、－COP15（第15回締約国会議）での海事社会に及ぼす影響について

－IMOの海洋環境保護委員会（MEPC）の動向

－外航海運会社の環境問題への対応

－国のスーパーエコシップ普及状況並びに促進の方針について等々

（3）海運に関する調査研究

上述した通り、昨年度より「真の海事立国に向けて」という標題を掲げて、ワークショップ方式で議論を進めている。今年度は第二フェーズの「次世代海技者育成機関のあり方」を纏めて、「海洋」に発表すると共に、第三フェーズである「海事社会制度のあり方」の議論を予定している。フェーズを重ねることに連れて、単なる海技者の問題から、幅広い海事社会全般の問題にまで議論を発展させたい。そのことにより、海運業のみならず海事産業の経営に関する課題にまで、踏み込まざるを得ないと考えている。

（4）海事思想の普及

教育機関並びに関連海事団体と連携を図りながら、海事産業の次世代の人材育成並びに確保のための活動を積極的に行うことは従来からの継続事業である。

具体的には、東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海事科学部並びに航海訓練所が主催する海事思想普及活動に物心両面に亘って、支援活動を行うことも前年度通りである。更には、海洋会ボランティアクラブが中心に行っている、重要文化財「明治丸」の保存活動は、修復費用の募金活動に全面的に協力すると共に、修復期間中は一般公開が一時中止になるにしても、再開時を機して積極的な展開が出来るように準備作業に万全を期することも前年度よりの継続案件である。また、神戸大学海事科学研究科に付属する「海事博物館」の運営を支援することも、必要に応じて実施して行くこととしたい。

また、母校を志願する受験生を少しでも増やすため、東京海洋大学並びに神戸大学側に協力して志願者の少ない高校へ、海事思想の普及等の情宣活動作業を兼ねて、高校訪問等の協力をすることとしたい。

（5）図書出版並びに（6）会誌の発行

会誌「海洋」を読者に読みやすく、かつ時機を得た編集内容にすることは、従来通りの継続案件であるが、会員の共益事業的な編集企画のみならず、もっと公益事業として評価されるページ作りを心がけたい。また、今年度は特定のテーマ、特定の読者層に絞った特集号の発行を計画する。因みに、今年度は学生向け特集号を企画、「海洋」平成22年5月号以降適時、掲載することを計画している。

（7）講演会の開催

各支部が海事思想普及の一環として行っている講演会活動は、従来通り継続するが、講演会の内容については、もっと会員外の方々に関心、興味を引く題材を取り上げたい。また、引き続き講演会内容は、会誌「海洋」又はホームページに掲載して行き、支部活動を広く紹介していく。とりわけ、各支部が中心となって開催している講演会は、新公益法人制度移行後の「公益目的支出計画」の事業の一環として、取り上げられる予

定であるので、今年度も重点課題としたい。

(8) 会館の設置及びその運営並びに(9) 会員の福利増進

本部、横浜並びに神戸の会館を収益事業活動の一環として有効活用を図る。また、各種ボランティアクラブ、職域グループ、クラス会、同好会等会員相互の福利、厚生を増進する支援活動を継続することは、昨年度同様である。

(10) その他本会の目的を達成するために必要な事業

当年度は、平成23年度総会後に提出を予定している新公益法人制度移行への対応の準備期間である。とりわけ、「公益目的支出計画」の策定及び事業を円滑に推進するための関係先(東京海洋大学海洋工学部及び神戸大学海事科学部を中心とする)との調整作業等である。更には、これ等の準備作業を踏まえて、一般社団法人への認可申請の是非を常設委員会、理事会並びに定時総会で審議のうえ、決議するという重要な年度でもある。

第2 会務関係

(1) 総会等の開催

第90回定時総会を平成22年6月に開催する。

(2) 新入会員確保と新卒、既卒未入会対策の推進

新卒会員を増やすために従来同様、卒業論文発表会、練習船乗船中、卒業式並びに就職先での新人研修期間等の一同に集まる機会を捉えて、海洋会の事業目的、活動内容、組織の歴史等を説明、積極的な入会促進活動は継続する。更に、東京海洋大学海洋工学部並びに神戸大学海事科学部の教職員と海洋会との定期会合は、昨年度同様引き続きを設営して、学生の海洋会入会を促進出来るような環境作りを行う。既卒未入会者へは、クラス会幹事の協力を得て、入会促進活動を行う。

(3) 財務状況の改善

デフレスパイラルに落ち込んだ日本経済の回復には、まだ時間がかかると言われ、家計へのしわ寄せが深刻な問題になっている。個人会費が全てである海洋会の財務状況は、相変わらず厳しい状況に置かれている。また、長期的な低金利状況の今日、基本財産の運用収入を増やすことも至難の技である。更には、新公益法人制度への対応関連作業で調査費用等、例年ない経費も想定しなければならない。よって、収入の増加は期待出来ないにしても、これ以上の落ち込みを防ぐために、会費未納者への納入促進を積極的に行う必要がある。現在励行している未納者への郵送による督促状以外にも、個人情報保護法に抵触しないよう配慮しながら、電話、メール、口頭で督促を行うことにしている。

(4) 新公益法人制度改革への対応

平成20年12月1日に施行された新公益法人制度改革への対応については、その制度の解説記事並びに会長私的諮問懇談会からの答申内容について、各々「海洋」平成20年8月号、平成21年新年号に掲載してある通りである。しかし、一部の会員より新

公益法人制度への海洋会の対応について、もっと会員に広く周知すべきであるとのこと指摘を受けていることを勘案、当件に係る常設委員会並びに理事会での審議内容、更には類似団体の動向等のニュースを交えて会誌「海洋」に適宜、記事を掲載する。

現在、海洋会としては平成23年度総会後速やかに、一般社団法人として認可取得を申請することが検討されているが、今年度には常設委員会、理事会のみならず総会で正式に「一般社団法人への移行」並びに「一般社団法人認可取得申請」をする件の決議を得たい。よって、今年度は総会での決議を得ると共に、新制度上の新定款の策定、ガバナンスの構築等の作業を行う計画である。また、昨年度より調査作業を継続している「公益目的支出計画」の成案をみて、関係先との調整、連携作業も大きな課題である。新公益法人制度への円滑な移行を計るためにも、昨年度創設した「企画委員会」で、近未来の海洋会の姿を画くことも肝要なる課題である。更には、企画委員会の下部組織に専属員を配置して、機敏に準備作業を進めていくことも計画している。

(5) その他

- ・「明治丸海事ミュージアム事業」並びに「神戸大学海事科学研究科海事博物館」運営への協力

東京海洋大学越中島キャンパスにある重要文化財明治丸の修復並びにその周辺環境整備に東京海洋大学は「明治丸海事ミュージアム事業」を立ち上げており、今年度はその事業が具体的に開始される年である。海洋会は当事業推進の一翼を担うべく、会員の方々に募金活動を展開していく。

また、神戸大学海事科学研究科に付属して設置されている「海事博物館」への支援活動を進めていきたい。

- ・「横浜会館」の歴史的建造物としての整備

昨年度後半、横浜支部の活動拠点である横浜会館が横浜市の歴史的建造物として登録されたが、今後一般の方々の館内への見学者が増えることが予想されているので、来訪者の安全、安心を高めることが急務である。そのためにも、横浜市の助成を得ながら、耐震構造上不安のない会館に整備する必要がある。現在、耐震診断後の工事費用を策定中であるが、工事金額によっては、その資金手当が大きな検討課題になる。

収支予算書

平成22年 4月 1日から平成23年 3月31日まで

社団法人 海洋会

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産等運用収入	10,000,000	9,000,000	1,000,000
基本財産利息収入	10,000,000	9,000,000	1,000,000
会費収入	42,000,000	42,000,000	0
正会員会費収入	42,000,000	42,000,000	0
不動産賃貸貸収入	2,200,000	2,200,000	0
不動産賃貸収入	2,200,000	2,200,000	0
会館使用収入	1,000,000	900,000	100,000
広告料収入	6,000,000	6,800,000	△ 800,000
会誌広告料収入	6,000,000	4,000,000	2,000,000
会員名簿広告料収入	0	2,800,000	△ 2,800,000
会館運営雑収入	400,000	400,000	0
会員名簿頒布収入	0	1,000,000	△ 1,000,000
雑収入	500,000	500,000	0
その他	500,000	500,000	0
事業活動収入計	62,100,000	62,800,000	△ 700,000
2. 事業活動支出			
事業費	54,437,000	55,203,000	△ 766,000
(船員・海事に関する調査研究)	4,562,000	4,099,000	463,000
給料手当	2,111,000	1,865,000	246,000
福利厚生費	188,000	204,000	△ 16,000
諸謝金	100,000	100,000	0
通信運搬費	100,000	100,000	0
会議費	50,000	50,000	0
事務機費	233,000	0	233,000
消耗品費	30,000	30,000	0
新聞図書費	150,000	150,000	0
母校支援金	1,600,000	1,600,000	0
(講演会等の開催及び海事思想の普及)	12,184,000	10,458,000	1,726,000
給料手当	3,255,000	3,089,000	166,000
福利厚生費	35,000	38,000	△ 3,000
講演会費	290,000	290,000	0
通信運搬費	632,000	632,000	0
会議費	1,053,000	1,053,000	0
旅費交通費	556,000	556,000	0
事務機費	233,000	0	233,000
消耗品費	224,000	224,000	0
修繕費	1,000,000	70,000	930,000
新聞図書費	40,000	40,000	0
新借地室料	1,082,000	1,082,000	0
借共益料	588,000	588,000	0
光熱水料	130,000	130,000	0
清掃本費	625,000	625,000	0
印刷製本費	654,000	654,000	0
渉外費	220,000	220,000	0
租税公課	305,000	305,000	0
事務委託費	685,000	685,000	0
雑費	400,000	0	400,000
(会誌の発行)	177,000	177,000	0
給料手当	16,550,000	16,089,000	461,000
福利厚生費	4,222,000	3,731,000	491,000
	378,000	408,000	△ 30,000
科 目	予算額	前年度予算額	増 減

		200,000	200,000	0
		2,200,000	2,200,000	0
		100,000	100,000	0
		120,000	120,000	0
		450,000	450,000	0
		7,200,000	7,200,000	0
		1,280,000	1,280,000	0
		400,000	400,000	0
(会館の設置及びその運営)		8,004,000	7,774,000	230,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	2,111,000	1,865,000	246,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	188,000	204,000	△ 16,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	60,000	60,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	50,000	50,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	1,000,000	1,000,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	456,000	456,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	3,000,000	3,000,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	175,000	175,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	380,000	380,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	564,000	564,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	20,000	20,000	0
(会館の福利増進)		2,729,000	2,499,000	230,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	2,111,000	1,865,000	246,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	188,000	204,000	△ 16,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	60,000	60,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	300,000	300,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	10,000	10,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	60,000	60,000	0
(図書発行)		2,992,000	5,745,000	△ 2,753,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	2,262,000	1,998,000	264,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	202,000	219,000	△ 17,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	20,000	20,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	420,000	420,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	50,000	50,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	28,000	28,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	0	3,000,000	△ 3,000,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	10,000	10,000	0
(不動産の賃貸)		7,416,000	8,539,000	△ 1,123,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	2,262,000	3,322,000	△ 1,060,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	202,000	235,000	△ 33,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	200,000	200,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	100,000	100,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	10,000	10,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	345,000	345,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	10,000	10,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	1,000,000	1,030,000	△ 30,000
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	737,000	737,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	1,200,000	1,200,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	300,000	300,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	400,000	400,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	28,000	28,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	10,000	10,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	440,000	440,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	50,000	50,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	100,000	100,000	0
給福通消修借共光清租雑	給料厚運繕地益水掃	22,000	22,000	0
管		14,032,000	10,834,000	3,198,000
役福	員利厚生	6,228,000	4,178,000	2,050,000
科		510,000	196,000	314,000
目		予算額	前年度予算額	増減
会	議	250,000	250,000	0

旅通事消修印涉事集雜	費信務耗	交運	通搬	費費費費費費費費	500,000	500,000	0
			機		400,000	400,000	0
			品		734,000	500,000	234,000
					50,000	50,000	0
		繕製	本		2,000,000	1,800,000	200,000
	刷	外	託		350,000	350,000	0
	務	委			410,000	410,000	0
		金			900,000	500,000	400,000
					1,200,000	1,200,000	0
					500,000	500,000	0
事業活動支出計					68,469,000	66,037,000	2,432,000
事業活動収支差額					△ 6,369,000	△ 3,237,000	△ 3,132,000
II 投資活動収支の部							
1. 投資活動収入							
特定資産取崩収入					7,890,000	5,000,000	2,890,000
備品減価償却引当預金取崩収入					7,890,000	5,000,000	2,890,000
投資活動収入計					7,890,000	5,000,000	2,890,000
2. 投資活動支出							
特定資産支出					500,000	250,000	250,000
役員退職給与引当預金支出					300,000	140,000	160,000
退職給与引当預金支出					200,000	110,000	90,000
投資活動支出計					500,000	250,000	250,000
投資活動収支差額					7,390,000	4,750,000	2,640,000
III 財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
財務活動収入計					0	0	0
2. 財務活動支出							
財務活動支出計					0	0	0
財務活動収支差額					0	0	0
IV 予備費支出					1,021,000	1,513,000	△ 492,000
当期収支差額					0	0	0
前期繰越収支差額					0	0	0
次期繰越収支差額					0	0	0

第3号議案

新公益法人制度移行への対応並びに定款改訂について

この議案は、平成20年12月1日に施行された新公益法人制度により、従来の社団法人海洋会は移行法人となり、平成25年11月30日迄、公益社団法人への「認定」取得か一般社団法人への「認可」取得を迫られています。

当件については、既に特設委員会、常設委員会並びに理事会で検討を行うと共に、主務官庁並びに内閣府に設けられている公益認定委員会等窓口相談に助言を求めてきた経緯があります。海洋会との類似団体並びに四囲の情勢を勘案して、海洋会は一般社団法人としての「認可」を申請することが妥当であるとの結論を得ております。

当件について、海洋会は一般社団法人としての「認可」取得を申請することについて、改めて承認の議決を得るものです。

更に、一般社団法人「認可」取得には、海洋会の定款を標準モデル定款に則った内容に改訂する必要があります。改訂案は別添「一般社団法人海洋会新定款（案）」の通りです。現在当改訂案を公益認定委員会等事務局に提出、チェックを受けているところです。海洋会としての正式決議は、公益認定委員会の内諾を得てからとなりますので、遅くとも平成23年度の定時総会時を予定しております。

(注) 一般社団法人海洋会新定款（案）は総会当日の出席者には配布致しましたが、上述してある通り、現在公益認定等委員会事務局に提出、チェックを受けているところです。内諾を得るには、まだ時間を要するとのことですので、返答あり次第、「海洋」へ掲載することを予定しております。

報告事項 特別会員の推薦について

平成 22 年 5 月 20 日開催の第一回理事会において、次のとおり特別会員の推薦があった。

特別会員

氏名	現職名	推薦者
松山 優治	東京海洋大学学長	東京海洋大学
中居 裕	東京海洋大学海洋工 学部教授	同上
中川 雄二	同上	同上
網野 啓吾	神戸大学海事科学部 事務長	神戸大学
竹林 幹雄	同上教授	同上
三島 智和	同上准教授	同上

注] 今回名誉会員の推薦は、ありませんでした。

以上